

野菜花き 6月上旬巡回調査結果の概要について

【東北信】 巡回日 6月8日、9日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地）は生育中（1段目開花期）であった。害虫は、アブラムシ類の寄生がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。うどんこ病の発生が前回調査時よりも拡大していたほか（図1）、輪紋病がみられた（図2）。害虫は、オンシツコナジラミの発生がわずかにみられた。



図1 トマトのうどんこ病
(長野市)



図2 トマトの輪紋病
(長野市)

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は収穫期であった。アザミウマ類の発生が継続しているが、防除により被害は抑制されている。病害の発生はみられなかった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は生育期であった。ヨトウガの幼虫（図3）、アザミウマ類、アブラムシ類の寄生がみられたが、いずれも少発生であった。病害の発生はみられなかった。



図3 きゅうりの葉を食害する
ヨトウガの幼虫（中野市）

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。

葉に炭疽病の発生がわずかにみられ（図4）、防除が行われていた。害虫の発生はみられなかった。



図4 いちごの炭疽病（南牧村）

4 キャベツ

小諸市、軽井沢町、南牧村の巡回ほ場は結球期、長野市の巡回ほ場は生育期（10葉期）であった。いずれの巡回ほ場でもチョウ目害虫の加害がわずかにみられ、軽井沢町ではタマナギンウワバの幼虫が確認された（図5）。また、長野市ではモンシロチョウの夏型第一世代成虫が発生し（図6）、キャベツの葉への産卵がみられた（図7）。病害の発生はみられなかった。



図5 キャベツの葉を食害する
タマナギンウワバの幼虫
(軽井沢町)



図6 モンシロチョウ夏型第一
世代メス成虫（長野市）



図7 キャベツの葉に産下さ
れたモンシロチョウの卵
(長野市)

5 ブロッコリー

御代田町の巡回ほ場は、収穫期であった。コナガ(図8)やタマナギンウバの寄生がみられるなど、栽培終盤でチョウ目害虫の加害がやや目立ったが、大きな実害には至らなかった。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、花蕾形成期であった。チョウ目害虫の加害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。



図8 ブロッコリーの葉に営繭するコナガ幼虫(御代田町)

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、定植前であった。小諸市、小海町の巡回ほ場は、収穫を終了していた。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。黒腐病(図9)の発生がわずかにみられた。害虫の発生はみられなかった。



図9 はくさいの黒腐病(南牧村)

7 レタス

小諸市の巡回ほ場は、前作の収穫が終わり、次作の定植が行われていた。上田市、御代田町、南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。

いずれのほ場においても、病虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場(露地栽培)は、立茎開始期であった。ジュウシホシクビナガハムシの成虫による寄生がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

小布施町の巡回ほ場(雨除け栽培)は、立茎中であった。アザミウマ類とアブラムシ類の寄生がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

飯山市の巡回ほ場(露地栽培)は、立茎中であった。茎枯病の発生が平年よりも早くみられた(図10)。また、アザミウマ類の寄生がわずかにみられた。

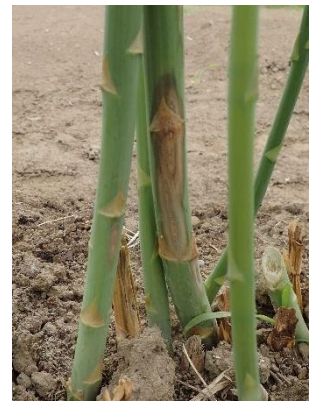


図10 アスパラガスの茎枯病(飯山市)

9 たまねぎ

長野市の巡回ほ場は、収穫を終了していた。

10 ながいも

長野市の巡回ほ場は、未出芽であった。

11 ばれいしょ

小諸市の巡回ほ場は、開花始期であった。オオニジュウヤホシテントウの成虫及び幼虫(図11)による葉の食害がみられた。アブラムシ類が継続して発生しているが、ナミテントウの幼虫(図12)やアブラバチ類(アブラムシの寄生蜂、図13)などの土着天敵により低密度で抑制されている。病害の発生はみられなかった。



図11 ばれいしょの葉を食害するオオニジュウヤホシテントウの幼虫(小諸市)



図12 アブラムシ類の土着天敵のナミテントウ幼虫(小諸市)



図13 アブラバチ類の寄生を受けたアブラムシ類のマミー(小諸市)

12 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、生育期(草丈40cm程度)であった。アザミウマ類が継続して発生しているが、通常防除とヒメハナカメムシ類(図14)などの土着天敵により低密度で抑制されている。病害の発生はみられなかった。



図14 アザミウマ類の土着天敵のヒメハナカメムシ類(佐久穂町)

【中南信】 巡回日 6月5日、9日、10日、11日

1 トマト

南箕輪村久保の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であつた。病虫害の発生はみられなかった。

松本市島立の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であつた。葉および果実に灰色かび病（少発生）の発生がみられたほか、花にアザミウマ類の寄生がみられた（図15）。

伊那市及び安曇野市の巡回ほ場（露地栽培）は、いずれも着花中であつた。病虫害の発生はみられなかった。



図15 トマトの果実に生じた灰色かび病の病斑（ゴーストスポット）（松本市）

2 きゅうり

松本市島立の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であつた。継続して発生していたうどんこ病（多発生）は、さらに発生範囲が拡大し、ハウス全体にまん延していた。虫害では、花および葉にアザミウマ類（中発生）、葉にアブラムシ類（中発生）の寄生がみられた。いずれも発生が増加傾向であつた。

高森町山吹の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫始期であつた。花に寄生しているアザミウマ類（少発生）は、わずかではあるが増加傾向であつた。

3 すいか

飯島町の巡回ほ場は、着果中（トンネル被覆）であつた。いずれのほ場も病虫害の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場は、着果中（トンネル被覆）であつた。葉にアブラムシ類及びハモグリバエ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

4 キャベツ

塩尻市洗馬の巡回ほ場は、収穫期であつた。ウワバ類（少発生）による外葉の食害がわずかにみられた。

朝日村古見の巡回ほ場は、収穫期であつた。病虫害の発生はみられなかった。

茅野市の巡回ほ場は、生育期（4～5葉期）であつた。病虫害の発生はみられなかった。

5 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場は、生育期（9～10葉期）であつた。ウワバ類（中発生）による葉の食害が多くみられた。

6 はくさい

朝日村の巡回ほ場は、結球期であつた（収穫終了によりほ場変更）。軟腐病（少発生）による地際部の腐敗がわずかにみられた。

木祖村の巡回ほ場は、結球始期であつた。病虫害の発生はみられなかった。

7 レタス

塩尻市洗馬の巡回ほ場は、収穫期であつた。外葉のすそ枯病（少発生）わずかに残っていた。

朝日村古見の巡回ほ場は、収穫期であつた。病虫害の発生はみられなかった。

8 セルリー

原村の巡回ほ場（露地栽培）は、生育期（トンネル除去）であつた。病虫害の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫が終了していた。

9 アスパラガス

豊丘村神稲の巡回ほ場（雨除け栽培）は、立茎中であつた。擬葉にアザミウマ類及びアブラムシ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

飯島町飯島の巡回ほ場（雨除け栽培）は、立茎中であつた。擬葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられた。

松川村鼠穴の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎中であつた。病虫害の発生はみられなかった。

10 たまねぎ

安曇野市の巡回ほ場は、収穫前であった。前回同様、葉に黒斑病（中発生）及び白色疫病（中発生）の発生がみられたほか、葉へのアザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ（中発生）の寄生も継続してみられ、いずれも増加傾向であった。

11 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 5.0～6.0 葉であった。葉にアザミウマ類（中発生）及びネギハモグリバエ幼虫（多発生）の寄生がみられ、特にネギハモグリバエ幼虫による食害が目立った（図 16）。

山形村の巡回ほ場は、本葉 4.0～5.0 葉であった。葉にアザミウマ類（多発生）及びネギハモグリバエ幼虫の寄生（中発生）がみられ、特にアザミウマ類による食害が目立った。

12 きく

富士見町の巡回ほ場は、未定植であった。



図 16 ねぎのネギハモグリバエ
(南箕輪村)